

以下、倉俣監督ブログ「こんな子どもにきてほしい！」抜粋

入団に際して大切なことは、①やる気、②保護者の理解、③技術、④体力、⑤ポジションの5項目です。簡単に補足します。

①やる気

①やる気：`野球小僧!`のような、野球がやりたくて仕方がない!というような気持ちが大切です。私は中学生の時、最も好きな教科は体育、部活は野球、投手、主将でした。30年以上の月日を経ても、高崎ジャイアンツボーイズには、`三度の飯より野球が好き!`というような選手に来ていただきたいと思います。

②保護者の理解

②保護者の理解：今年から吉井町の東京精密管様のご厚意により、グラウンドが固定されましたが、それでも、部活と違い、保護者の送迎や練習・試合での協力は不可欠。学童との違いは移動距離でしょうか? 県外の遠征にはバスを利用しますが、それでも県内利根沼田地区、太田・館林方面など50キロ程度離れている場所、または、本庄・熊谷などは、現地集合(現地解散)が基本です。さらに、平日は週2回の筋力トレーニング、1回の夜間練習があり、週5日間は拘束されます。中学野球は実質2年半程度。過ぎてしまえば皆さん`あっという間`との感想です

③技術

③技術：小学生のうちに、ぜひキャッチボールができるようにしていただきたいと思います。`そんなの簡単じゃん!`と思われるかもしれませんが、足を上げた時のバランス、トップの時の肘の高さ、リリース時のグラブのたたみ方、フォロースルーの形など、細かい点を見ると意外とできていない子が多いです。中学になると、基本技術に加え、打球や状況判断能力を磨くことに主眼が置かれます。ぜひ、基本的な部分は小学生のうちにマスターしておいてほしいと思います。

④体力

④体力：一にも二にも、`足の速さ`が大切です。チームでは、投手や打者に対して細かい成績表を出して、自分の課題がわかるようにしていますが、だれを試合で使うか? の判断は、`足の速さ=運動能力の高い選手`を基本にしています。

⑤ポジション

⑤ポジション：選手が増えても、できるだけ多く試合経験を積ませたいと思っています。そのために、昨年からポジションごとの募集数を明記したところ、子どもたちに非常に良い経験を積ませられていると感じます。そこで、来年度も同様に、投手6名、捕手3名、内野手(セカンド、サード、ショート)6名、外野手3名を目安にします。見学や入団希望者には、キャッチボールなど基本的な技能を見せていただき、上手な場合はすぐにOKを出させていただきます。他のチームも見学、体験していただき、入団するかどうかの最終選択や意思決定は、あくまでも保護者の方と子どもにあるようにしています。技術・体力面に課題がある場合は、`この部分を直してもう一度見せてください`というようにお答えします。

入部に関してのお願い

入部に関して、いくつかお願いがあります。一つ目は、足のスピードです。ホーム~1塁の塁間27.4mを5秒以内で走って頂きたい。1年間で平均0.3秒程度速くなれるので、中3の頃には4秒フラット(50m走なら6.6~8秒)になっています。この足のスピードが甲子園を狙う高校で野球をやるには大切だと考えます。ただし、子どもには早熟と晩熟という異なる成長曲線を描く子がいます。例えば、東海大相模に進学し甲子園で優勝した臼田君(現東海大

1年) や田代君(現桐蔭学園2年)。2人はともに中学時代日本代表に選ばれましたが、中1の4月時点で、すでに4秒0で走っていました。これは典型的な「早熟タイプ」。一方、中1の時、4秒8~9台、5秒すれすれの「晩熟タイプ」選手のほとんどが、中3では4秒1~2で走れるようになります。現中3の高野君(投手、群馬選抜)は晩熟タイプながら3秒台に突入しました。

このタイムを縮めるのに必要なのが、「努力」。私の専門の一つは、トレーニング。ジムでの筋トレやグラウンドでの自体重を使ったトレーニングはお手の物。種目、回数、セット数、休憩時間、週の頻度、ランニングフォーム等を調整することにより、足は速くなります。ただし、トレーニングは最低週1回(1日)、最高週5回(5日)という原則があります。週1回なら年間50回、週5回なら年間250回。中学生には週2回、年間100回のトレーニングを課していますが、これを継続するのとならないのでは大違い。それが努力・意識の差なのです。そこで二つ目の願いは、「努力を継続できる」です。

昔と違い、早熟タイプの子も晩熟タイプの子も、18~22歳という年齢で十分、子どもの頃からの抱き続けた「将来はプロ野球選手になりたい!」という夢を実現できるようにスポーツ科学は発展してきています。ただし、一つの分野で頭角を現すには、10年間で1万時間(1年1000時間、1週間20時間)の努力がどうしても必要。この努力を継続できずして、「将来はプロ野球選手になりたい」、「将来は野球関係の仕事に就きたい」と言っても、神様はその子が本物かどうか、簡単に見抜いているのだと思います。